

第3学年8組 道徳指導案

- 1 主題名 公德心〔内容項目C-(10): 遵法精神、公德心〕 (1時間完了)
〈資料名 「ワカサギ」 出典: 明るい人生 (愛知県教育振興会)〉

2 ねらい

禁漁区域外でワカサギをとり、同級生の父から注意されたことや、主人公がとったワカサギを食べる父親の態度の変化から、法の抜け道を考えて、自分の利益だけを追求してしまったことに気づいていく主人公の心情に迫ることで、法やきまりを違反さえしなければ何をやってもよいのかを考え、目先の利益にとらわれたり、自分の都合のいいように解釈したりせず、生活しやすい社会をつくっていききたいという道徳的心情を高める。

3 ねらいとする道徳的価値

中学3年生になると、社会のしくみや人間の生き方に対するの自覚がしだいに高まり、法やきまりの意義についても理解が深まってくる。しかし、ときには、自己の欲望を満たすためにきまりを破ったり、自分の都合のよい解釈をしたりする傾向も見られる。

法やきまりを違反さえしなければ、何をやってもよいということにはならない。法やきまりは、各自の勝手な自己主張によって他の者の利益が損なわれることのないよう、社会的な合意の中で、調和をもって実現されなければならないはずである。生活しやすい社会にしていくためには、守るべき最低限の事柄を示した法やきまりを守るだけでなく、自らの良心に従って、積極的に法やきまりを守ろうとすることによって維持され高められる。この授業を通して、社会正義、公德心などについての気持ちを高めていきたい。

4 ねらいとする道徳的価値に関する生徒の実態と願い

(1) 学級について

本学級の生徒は、明るく元気な生徒が多く、道徳の授業でも自分の意見を言える生徒が多い。学校の規則に対しても多くの生徒は守ることができている。しかし、自分たちが楽しむことに夢中で、大きな声を出したり、通路をふさいだりして、他の生徒の迷惑になっていることに気づいていない生徒もいる。きまりになっている、なっていないにかかわらず、他者と共に生活する社会の場面において、違反さえしなければ、何をやってもよいということにはならない。各自の勝手な自己主張によって他の者の利益が損なわれることのないよう、バランスを保ちながら自他共に生活し、行動する気持ちを高めたい。

(2) 抽出生徒について

① 抽出生徒Aについて

応援コンクールの団長を務め、明るい性格でみんなを楽しませることが好きである。ただし、お調子者であり、自分の仲のよい子たちと楽しんでいるとまわりが見えなくなってしまう面がある。きまりを破っているわけではないので、自分たちが楽しんでいるときは、人に大きな迷惑をかけなければ何をやってもよいという気持ちがある。本時ではAに、禁漁区域外でワカサギをとり、同級生の父から注意されたことや、主人公がとったワカサギを食べる父親の態度の変化から、とまどいを見せる主人公の心情について考えさせ、自分の利益だけを考えるのではなく、自分で判断して、みんなが生活しやすい環境にしていこうとする気持ちを高めたい。

② 抽出生徒Bについて

学級や学校のリーダー的存在である。きまりをきちんと守るだけでなく、良いか悪いかを自分で判断して行動することができる。本時では、違反していなくても、目先の利益にとらわれたり、自分の都合のいいように解釈したりせずに行動するというBの意見を取り上げ、学級全体に広めていく。この授業を通して、今までの自分の行動に自信をもち、今後の学校生活の中でも、自分の利益だけを考えるのではなく、自分で判断して、みんなが生活しやすい環境にしていこうとす

る気持ちを大切に、よりよい学級をつくるために活躍する姿を期待したい。

5 資料について

(1) 資料の概要

主人公である三郎たちが、本来は産卵期で川をのぼるワカサギをとってはいけないが、禁漁区域外だということによって。同級生の順二の父から「今年は水が落ちているから、この場所だって産卵場所になっている。禁漁区と理屈は同じじゃないか。」と注意されるが、三郎と一緒にとっていた高校生の忠が「決まってもいない禁漁区を、勝手に作られちゃたまらない」とやりこめてしまう。また、夕食時、ワカサギのてんぷらを上機嫌に食べていた父親が、三郎が禁漁区域外でとってきたワカサギであると知ると、様子が急に変わってしまう。三郎は、いつも優しい父がこんなことで機嫌を悪くするとは思わず、とまどうと同時に、忠にやりこめられた順二の父の姿を思い浮かべていた。

(2) 「耳をすまして、学びを拓く」ための資料の生かし方

①資料との対話をさせるための手だて

資料を前半と後半に分割して範読する。前半は、禁漁区域外でワカサギをとる三郎の行動をどう思うか、批判と弁護の立場を明らかにして話し合わせる。どちらの意見も出るように三郎の父の態度が変わる前で区切る。話し合いを通して、自分のことだけを考えて行動することや、法やきまりの抜け道を考えて行動することの是非を考えさせておくことで、後半部分の三郎の心情に迫りやすくする。後半部分では、三郎がワカサギをとってきた場所を知り、態度が変化する父親をみてとまどう三郎の姿に着目させる。同時に忠にやりこめられた順二の父の姿を思い浮かべているときの三郎の心情に迫ることで、三郎に欠けていたことは何であったのかということに気づかせる。

②他者との対話、自己内対話をさせるための手だて

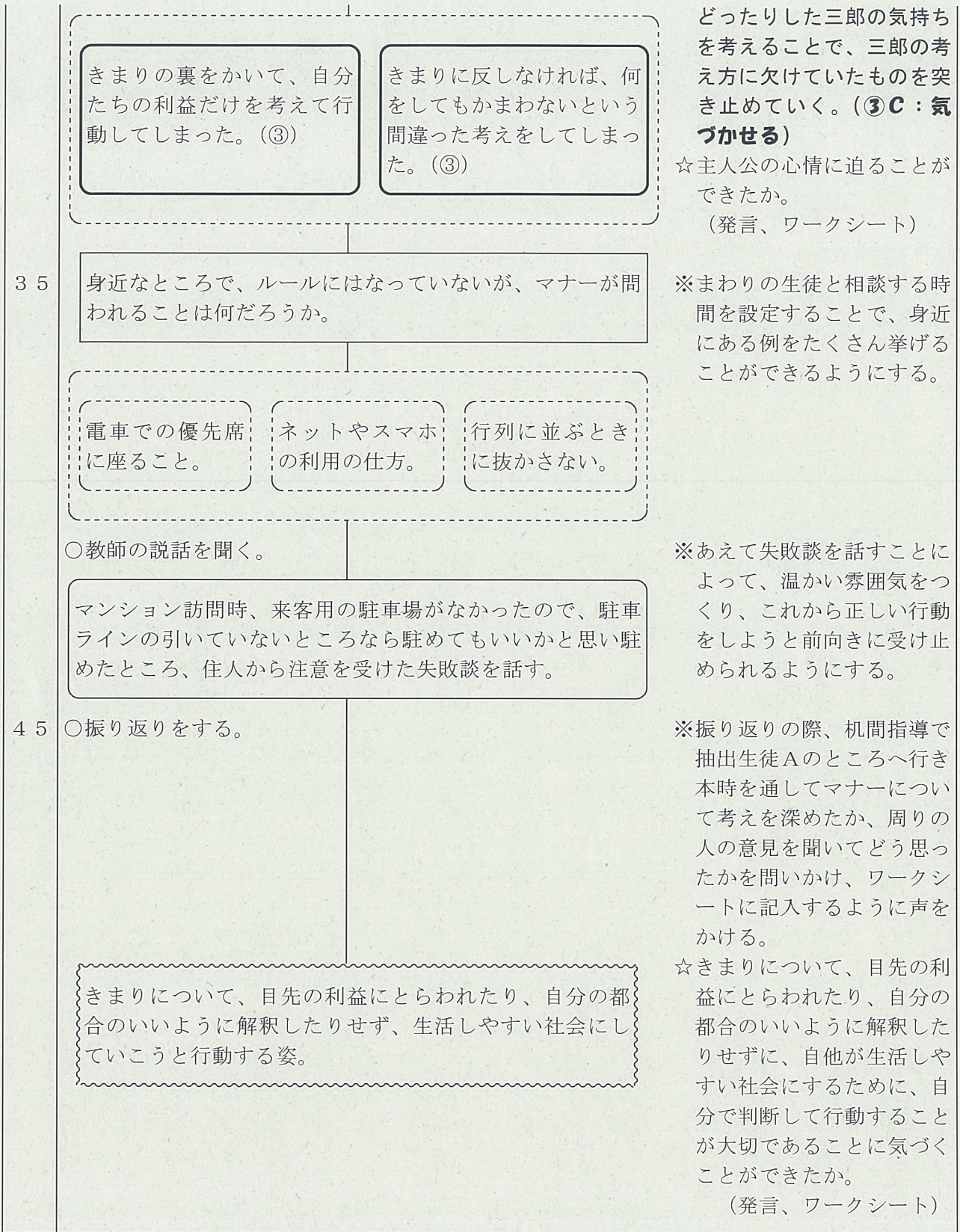
資料のように、ルールにはなっていないが、マナーが問われる場面は日常生活においても多く見られる。どのような場面があるかを取り上げ、この場面では自分ならどうするか、どうすればよいかという補助発問をして、目先の利益にとらわれたり、自分の都合のいいように解釈したりせず、生活しやすい社会をつくっていかうとする気持ちを高める。

6 板書計画

ワカサギ	減水によるワカサギすくいを行った三郎の行動をどう思いますか。
批判	・ワカサギが絶えてしまう。 ・自分がたくさんとればいいという考えだけでやっている。
弁護	・禁漁区じゃないんだから、きまりは破っていない。 ・毎年水が落ちるわけじゃないから、チャンスだ。
	三郎は、忠にやりこめられた順二の父の姿を思い浮かべながら、何を考えていたのだろうか。
	・きまりの裏をかいて、自分たちの利益だけを考えて行動してしまった。 ・きまりに反しなければ、何をしてもしかまわないという間違った考えをしてしまった。

7 本時の展開

時間	学 習 活 動	※教師支援 ☆評価
5	<p data-bbox="272 342 1034 421">きまりがなかなか守れないのは、なぜだと思うか。</p> <div data-bbox="256 461 1034 779" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; width: 30%;">一人ぐらいいは守らなくてもいいと思ってしまう。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; width: 30%;">なぜそのきまりがあるのか、きまりの意味がよくわかっていない。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; width: 30%;">きまりを守っても、得をしない。</div> </div> <p data-bbox="272 801 1034 835">○資料前半の範読を聞く。</p> <p data-bbox="272 857 1034 969">減水によるワカサギすくいを行った、三郎の行動をどう思うか。</p> <p data-bbox="272 992 1034 1025">○話し合う。</p> <div data-bbox="256 1048 1034 1731" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">批判</p> <p>卵を持ったワカサギをたくさんとったら、ワカサギが絶えてしまう。</p> <p>自分がたくさんとればいいという考えだけでやっている。(②)</p> <p>順二の父に注意されたのにもかかわらず、やっている。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">弁護</p> <p>禁漁区じゃないんだからきまりは破っていない。とるのは自由だ。(①)</p> <p>去年は大人たちもとっていたんだからいいじゃないか。</p> <p>毎年水が落ちるわけじゃないから、このチャンスを逃すのはもったいない。</p> </div> </div> </div>	<p data-bbox="1070 365 1449 521">※きまりについて、迷惑をかけなければ守らなくてもよいや損得で考えてしまうことがあることを確認する。</p> <p data-bbox="1070 835 1449 1193">※「禁漁区はなぜあるのか」や「法に触れなければ何をしてもいいのか」と問いかけ、きまりを守っているからよいという考えをゆさぶり、法の抜け道を考えて行動することの是非に迫れるようにする。(①E: ゆさぶる)</p> <p data-bbox="1070 1238 1449 1462">※抽出生徒Bを意図的に指名することで、後に起こる問題を考えずに、自分の利益だけを追求していることに気づくようにする。(②B: 生かす)</p> <p data-bbox="1070 1507 1449 1821">※「禁漁区の範囲を広げればいい」や「禁漁区域外では何匹以上はとらないようにする」といった対策論が出た場合には、今は、二人の行動自体をどう思うかに論点を戻す。(D: 軌道修正する)</p>
2 5	<p data-bbox="272 1877 1034 1910">○資料後半の範読を聞く。</p> <p data-bbox="272 1933 1034 2045">三郎は、忠にやりこめられた順二の父の姿を思い浮かべながら、何を考えていただろうか。</p> <p data-bbox="272 2067 1034 2101">○話し合う。</p>	<p data-bbox="1070 2022 1449 2101">※父親の態度の変化やことばで、ぎくりとしたり、とま</p>



授業の視点

- ① 中心発問は、きまりについて、目先の利益にとらわれたり、自分の都合のいいように解釈したりせず、生活しやすい社会にしていこうとする心情を育むうえで有効であったか。
- ② ①E、③Cにおける教師支援は、三郎の気持ちに迫り、生徒の公德心についての考えを深めるうえで有効であったか。